

取組の背景

○問題背景： 空き家は毎年増加の一途を辿っており、市区町村の空き家対策の現場では人員を増やせないなか、年々負担が高まることが予想されます。現行の空き家対策の多くは事後対策であり、事後となつてからでは老朽化が進み活用が難しくなる場合や、所有者・相続者との連絡等が取りづらくなる場合が少なくありません。

○目的： 将来空き家になりやすい住宅を事前に特定・優先順位付けをできるようにすることで、空き家の発生予防に向けた相続支援・空き家流通支援施策等の事前対策を支援する体制を構築・提供します。

取組内容・期待される効果

○取組内容： GIS・AIにより自治体保有データおよび地図データを統合・活用し、現在から中長期の将来までの空き家になる将来確率を戸単位で予測します。空き家予備軍を定量的に確率で表現します。

○期待される効果： ①空き家の発生予防に向けた事前対策（相談会開催等）の重点地域・実施年度・施策の選定、②空き家施策効果の測定（定量化） ③効率的・継続的空き家調査・管理不全空き家の早期発見の実現

現在と将来の居住確率予測結果（イメージ）



居住確率

居住確率による施策効果の定量化（イメージ）

